

廃棄物資源循環学会学会誌および論文誌執筆要領

編集委員会

平成21年 1月27日 制定

平成22年 2月 2日 改正

平成23年 7月27日 改正

平成23年11月 5日 改正

平成24年 5月17日 改正

廃棄物資源循環学会学会誌および論文誌の原稿執筆にあたっては、本要領および学会誌記事要領もしくは論文誌投稿要領を熟読の上、誤りのないよう留意して下さい。

本文

1. 文章は和文とする。文章は口語体とし、特に英文もしくは片仮名書きを必要とする部分以外は、現代かなづかいによる漢字まじり平仮名文とする。記述は簡潔にし、外国の固有名詞は原則として原語つづりとする。なお、英文原稿は英文誌“**Journal of Material Cycles and Waste Management**”へ投稿し、原稿の作成は同誌の執筆要項に従う。

2. 原稿は、A4用紙を用いて横38字、縦40行とする。数字およびローマ字は半角扱いとする。(2300字で刷り上がり1頁に相当)

3. 論文等の記載は次の順序を原則とする。

① 第1ページ：標題，著者所属機関，著者名，和文要旨（400字以内），和文キーワード（5語以内），簡略標題（標題が30文字以内の場合は不要）

② 第2ページ以降：本文，謝辞，参考文献

③ 最終ページ：英文標題，英文所属機関，英文著者名，英文要旨（200語以内），英文キーワード（5語以内）

④ 図表キャプション，図表

⑤ 電子付録

4. 原稿における本文の区分けは、大見出し、中見出し、小見出しなどを明瞭にする。

例) 1.

1.1

1.1.1

(1)

(a)

5. 文章の区切りには、句点(。), 読点(,)を用い、いずれの場合にも全角で1字分をあてる。また段落の始めは1字分あける。

6. 数式は式として独立したものは

$$\frac{a+b}{c+d}$$

のように改行して書くが、本文と同じ行の場合には、 $(a+b)/(c+d)$ のように書き、かつイタリックの指定をする。

7. 見出しなどの活字指定は編集者に一任する。原則として数量または数値を表わす欧字はイタリックとする。単位は原則として S I 単位表記を用いる。ゴチック指定は慣用の場合や数式などやむを得ない場合に限り用いる。

8. 脚注は †, †† の記号で示し、原則として頁脚注とする（脚注のある頁の下部に横線を引き、その下に記入する）

図、表および写真

1. 図および表は、学会誌では和文で、論文誌では和文または英文で作成し、1編の記事の中ではいずれかに統一する。和文は図 1, 表 2, 英文は Fig. 1, Table 2 のように表わし、タイトルを付ける。タイトルは 1 頁ごとに記入するとともに、別頁に一覧（図表キャプション）を作成し、原稿に添付する。

2. 図の刷り上がり寸法の基準は、横幅 6.5 cm（最大 14 cm）である。図版中の文字や線の太さなども十分考慮して基準寸法の 2 倍程度 of 原図を作成する。特にグラフ中のシンボル（○, △, □ など）や説明文等の文字は適切な大きさで記入すること。希望縮小率があれば各図の右下に記入してもよい。

3. 図および表は、本文中に空欄を作ったり、図表を貼りつけたりせずに、1 葉ごとに別頁とし、図表タイトル一覧の後に掲載する。図表の挿入位置は本文原稿内に明記する。

4. 写真は図として取り扱う。

5. カラー写真やデータを使用しても、原則として白黒印刷とする。ただし、カラーでの印刷費の増分は著者負担とする。

参考文献

1. 参考文献の引用は引用箇所の上に 1, 2), 3-5) などのようにつける。

2. 参考文献は本文の末尾にまとめて引用番号順に記す。雑誌の場合は著者名（全員）：題目，雑誌名（略記にて可），巻，号，頁，発行年を，書籍の場合は著者または編者名：書名，発行所，頁，発行年の順に記す。

例)

1) 平山直道：廃棄物処理技術の今後の動向，日本機械学会誌，第 84 巻，第 754 号，pp.958-963（1981）

2) C.Rappe：Analytical Methods and Exposure Assessment, Chemosphere, Vol.18, No.1-6, pp.17-21 (1989)

3) M. Takaoka, N. Takeda, N. Yamagata, T. Masuda：Current status of waste to power generation in Japan and resulting reduction of carbon dioxide emissions, Journal of Material Cycles and Waste Management, <online first> doi: 10.1007/s10163-011-0019-8 (2011) <http://www.springerlink.com/content/tp81043rww473766/> (accessed 2011-July-23)

- 4) 山本攻：“埋立処分と地球温暖化。”地球温暖化と廃棄物。武田信生，福永勲，高岡昌輝編，中央法規出版，pp.135-166（2009）
- 5) M.Hiraoka：Overview of Pyrolysis, Thermal Gasification, and Liquefaction Process in Japan, In J.L.Jones & S.B.Radding (Ed.), Thermal Conversion of Solid Wastes and Biomass, ACS Symp. Ser. 130 (1980)
- 6) 環境省：平成 22 年度廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（2011）<http://www.env.go.jp/recycle/report/h23-11/>（参照 2011 年 7 月 23 日）
- 7) US EPA：Integrated Risk Information System (IRIS), <http://www.epa.gov/IRIS/> (accessed 2011-July-23)
- 8) JIS K 0060：1992. 産業廃棄物のサンプリング方法.
- 9) ISO 13586-1：2001. Safety of machinery – Pressure-sensitive protective devices – Part1: General principles for design and testing of pressure-sensitive mats and pressure-sensitive floors.
- 10) 文部科学省研究振興局長：廃プラスチック選別機，特許 3752522（平成 18 年 3 月 8 日）

電子付録

1. 電子付録は，オンライン上でのみ公開し，冊子体では提供しない。電子付録には，以下の内容を含めることが出来る。
 - ・印刷できない情報（例：動画，音声など）
 - ・電子媒体での提供が有用な情報（例：インタラクティブな表計算ファイルなど）
 - ・大規模なデータ（例：補足的な図表など）
2. 電子付録の各項目には，電子付録 1，電子付録 2，のように連番をつける。電子付録を添付するときは，必ず本文中で参照することとする。電子付録の内容は，査読対象とする。
3. 電子付録のファイル形式は，下記の通りとする。実行ファイル (.exe 形式) は認めない。
 - ・文書および図：PDF 形式とする。
 - ・表計算：静的な表は PDF 形式とする。インタラクティブな表は.xls 形式または.xlsx 形式とする。
 - ・動画：mpg 形式とする。
 - ・音声：wav 形式とする。
4. 電子付録の各ファイルには，下記の情報を含めることとする。動画ファイル，音声ファイルの場合は，ファイルのプロパティ内に記載する。
 - ・標題，論文誌名（廃棄物資源循環学会論文誌），著者所属機関，著者名，投稿責任者の e-mail アドレス